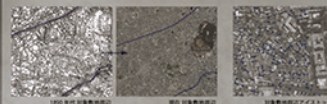


平面的「抜け」のない面において、頂上に対し、内と外から同時に「抜け」を作り出す。空に伸びていくような本住宅は、更新のスピードの違いの中の震ただしさや、密集する住宅地の重苦しい圧迫感からのひとときの解放を演出する。

平面的「抜け」のない面において、頂上に対し、内と外から同時に「抜け」を作り出す。空に伸びていくような本住宅は、更新のスピードの違いの中の震ただしさや、密集する住宅地の重苦しい圧迫感からのひとときの解放を演出する。

周からの探光のため
外壁を鋭めにカットする

対象地域の世田谷区北沢は農地から宅地をつくる際、農道を基礎としていることもあり、道路網は複雑に入り組んでいる。そのため、比較的近距離にアイストップがあり、平面的に「抜け」が取れず、住宅が密集していることもかさなり、圧迫感を感じる面である。



1990 年 10 月 1 日

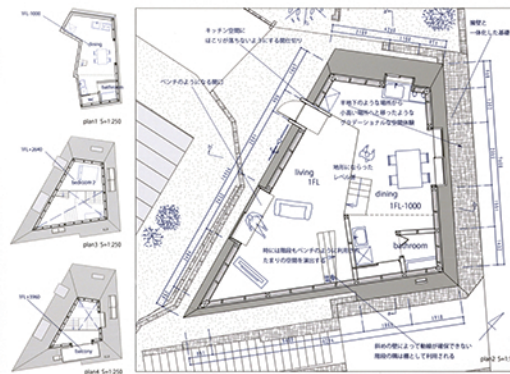
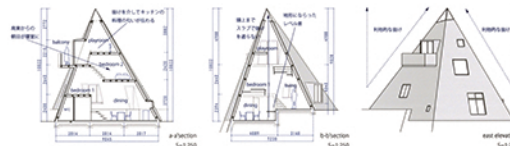
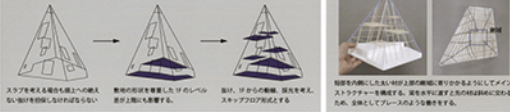
總計 31 處農地，佔總面積 10.1%

1997年12月

① 圧迫感のある高密度な住宅街 ② 頭上に展開する“利己的な抜け” ③ “己”と他の抜け”を同時に実現する形態



■ 構造イメージ



計画地の東西に位置する道路から下のスロープを介して事宅にアプローチし、両壁の下は設計員により約4m低いという断面形状を尊重し、1Fのスラブをずらす。

● 希望を基礎と考へ外望
● 知ることて敷地境界
● セットバックを確保す

また道から路上へと降り
続かない

外部環境に対する「受け」
この住宅のまわりには逆三角形の空地のようなものが生まれ、影を落とさない

頭上へと納めることなく続く“抜け”
またそこに家族のさまざまなシーンが絡みつき降り注ぐような空間構成

斜めの壁によって人が通ることができない階段の隙は、棚として利用され、

近隣の建物よりも高い位置に設けられた開口によってプライバシーを確保する
また、高さにわたる大きな開口から夫婦の寝室に朝日が降り注ぐ